opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 48

オプス・デイの創立は聖ホセマリアにとって新しい家族を持つことを意味しました。それによって、神父の血縁の家族は色々な面で犠牲を強いられることになりました。

2024/05/23

過去の記事はこちらから

オプス・デイの創立は聖ホセマリア にとって新しい家族を持つことを意 味しました。それによって、神父の 血縁の家族は色々な面で犠牲を強い られることになりました。

弟のサンチアゴにとっては16歳年上の兄は父親代わりの存在でした。オプス・デイの初期の時代、彼はまま10代でしたが、神父の周囲に集まち上でした。兄が自分をあるでいました。兄が当分を相のを見て、子どもらしく兄が新しいまったことを直感し、寂しさを直感し、たようです。

姉のカルメンはホセマリアと同様、 強い性格の持ち主でしたが、とても 感受性の豊かな人好のする女性でし た。一度ならず結婚の申し込みを 断ったようです。それは弟の仕事を 手伝うためでした。

神父は、血縁の家族とオプス・デイをきっちり分けるべきと考えていましたが、センターや寮の家事の仕事と女子メンバーの養成という重要な

仕事に、どうしても母と姉の協力を 頼まざるを得ませんでした。すでに 見たように、二人はこの申し出を受 けました。それは人生を捧げるほど の犠牲を要求されることでした。

父はログローニョの墓地に眠っていました。母は生前、夫と一緒に埋葬されたいと言っていました。そこで 聖ホセマリアは母の一周忌を迎える 頃、必要な手続きをして、父の遺骨をマドリードに移し母の遺体の側に 埋めました。

その20年後、マドリードのディエゴ・デ・レオンというセンターがオプス・デイのスペインの本部として改築されたとき、年配のメンバーたちが神父の両親の遺骨をセンターの地下聖堂に納めることを提案しました。この二人にオプス・デイ全体が受けた恩への感謝を表すためでした。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-48/ (2025/10/29)